目次

特集

音楽と〈発言〉をつなぐ紺の海

2 巻頭言

特集論文

6 音楽の魅力あるいは誘惑
——婚礼をめぐるアラブ・ムスリムの語りを中心に
八木久美子

20 響きあい混ざりあう声
—イタリアのラップについて—
小久保真理江

30 「歌が私たちの呼吸する空気になった」
—— 一九六〇年代のソ連の弾き語り文化
沼野恭子

特集エッセイ

48 業の調べ
——カンボジアの伝統弦楽器チャパイ
岡田知子

54 タイの歌謡曲に姿を変えた伝統文学
コースィット・ティップティエンポン

60 歌の大地、ベンガル
～バウルとコビガン～
丹羽京子

70 モンゴル文学に描かれた力士像
岡田和行

74 ラップと中東の社会・政治変動
山本薫

78 差異を奏でる
——アメリカ現代文化における音楽の可能性
加藤雄二

80 一九八三年のスペインから
——表現の自由と風紀紊乱のはざま
久米順子

86 歌う詩人
——ヴェーデキント、クラウス、ブレヒト、ビーアマン
西岡あかね

新刊紹介　訳者からひとこと

104 ウンベルト・エーコ著／和田忠彦・小久保真理江 共訳
『ウンベルト・エーコの小説講座　若き小説家の告白』

ヘイドン・ホワイト著／岩崎稔監訳
『メタヒストリー　一九世紀ヨーロッパにおける歴史的想像力』

スーザン・バック＝モース著／岩崎稔・高橋明史訳
『ヘーゲルとハイチ　普遍史の可能性に向けて』

江戸川乱歩著／コースィット・ティップティエンポン訳
จอมโจรสี่สิบหน้ากับปริศนาหัวกะโหลก
(『怪奇四十面相』)

ミウトン・ハトゥン著／武田千香訳
『エルドラードの孤児』

ズウミーラ・ヒベイロ・タヴァーリス著／武田千香訳
『家宝』

報告

108 二十一世紀に日本語作家として生きる
——考えること、ことばにすること
(星野智幸)

111 総合文化研究所 Workshop Series 第四回
「ロシアのポストモダニズムとナショナリズム：
V・ペレーヴィンの作品分析から」 (笹山啓)

113 総合文化研究所 Workshop Series 第五回
「ウクライナの《串刺し公》
『イェレミーヤ・ヴィシュネヴェーツィケィイ公』
を巡る考察」 (原真咲)

115 TUFS Cinema『低開発の記憶——メモリアス』
(久野量一)

116 第三回国際コロキウム「異なる視野から見たヨーロッパ中世」
および特別セミナー「“ムデハリスモ”と“モサラビスモ”：
中世イベリア半島におけるキリスト教世界とイスラーム世界
の文化交渉」 (久米順子)

118 「翻訳という創造空間」総合文化研究所シンポジウム
(山口裕之)

- - 編集後記